



全日本高校選手権・全日本中学選手権・全日本小学生大会&ワールドユース



猛暑に負けるな! ジュニアの夏

近年はキョーイチボウル宇治(京都)を会場に行われてきた全日本中学選手権が、センターの閉鎖もあって、今年は高校生から小学生までのジュニアが、愛知・稲沢グランドボウルに集結して熱戦が繰り広げられた。またその直前まで韓国で行われていた世界ユース選手権は、WORLD TOPICS拡大版として、山下智且さんにレポートをお願いした。

JOCジュニアオリンピックカップ 第48回全日本高校選手権

7月23～25日 / 稲沢グランドボウル

男子・下地、女子・網代選手が2年生で選手権者に



▲男子入賞者、左から優勝・下地良尚、2位・金子雄斗、3位・福島滉己、4位・渡邊楓、5位・増田優希、6位・横地優輝、7位・品川圭佑、8位・滝聖也の各選手



▲女子入賞者、左から優勝・網代羅夢、2位・砂川舞佳、3位・我孫子美葵、4位・濱崎姫琉、5位・高橋亜子、6位・石井ころこ、7位・森川好葉、8位・坂田望実の各選手



▲昨年は台風の影響で出場できなかった下地選手、今年も危なかつたけど、無事来られて、しかも優勝できてよかった



▲スベアの上達が優勝に結びついた網代選手「これまで全国大会で準優勝が2回あったけど、優勝は初。実感はないけど、本当にうれしい」

男子
予選(9G)を2133でトップ通過の下地良尚選手(沖縄県立首里東高)は「みんなが苦しむ時間帯に打ち上げることができて、貯金を作れたのが大きかった」と、2位に75ピン差をつけていた。

決勝(3G)は、金子雄斗選手(千葉県立市川工業高)が787を叩くなど、ビッグゲームの応酬となったが、下地選手は「気

が抜けなかったけど、自分の得意なラインだったので落ち着いて投げられた」と、739を打ってトータル2872で優勝を飾った。2805で2位の金子選手は、「いいボウリングができたけど、トップが落とさない限り届かないと思っていた」と、2位にも満足感があった。

女子
予選を1888で石井ころこ選手(埼玉・松栄学園高)がトップ

に立っていたが、5位の網代羅夢選手(神奈川県立大和東高)でも48ピン差など、混戦となっていた。

決勝は、石井選手をはじめ、予選の上位選手が伸び悩むなか、予選7位通過の砂川舞佳選手(沖縄県立首里東高)が、1G目あわやパーフェクトの288を打って、一気にトップを奪った。しかし2G目は砂川選手が198とペースを落とす間に、

249を打った網代選手が26ピン逆転して最終Gへ。砂川選手が「右レーンを攻略できなかった」と202に終わったのに対し、網代選手も「ていねいに投げようと思ったけど、投げミスもあった」とやや苦しんだが、199とまとめ、トータル2511で優勝、砂川選手は23ピン及ばず、同じ首里東高の下地選手との男女アベック優勝はならなかった。

文部科学大臣杯 第48回全日本中学選手権

7月23～25日 / 稲沢グランドボウル

男子・五月女、女子・田口選手がともに有終の初V



▲男子入賞者、左から優勝・五月女瑛太、2位・高林和志、3位・多胡陽葵、4位・杉尾拓摩、5位・林田壮真、6位・高野隆太、7位・加藤大晟、8位・谷内志優の各選手



▲女子入賞者、左から優勝・田口みちる、2位・藤原彩花、3位・朝倉奈菜羽、4位・奥田琴弓、5位・関根井文音、6位・塩原明依、7位・神田結羽、8位・白井愛菜の各選手

男子
予選(9G)はすべて200アップの安定した内容で2092を打った多胡陽葵選手(群馬・安中市立第一中)が1位、1回戦で766を打った林田壮真選手(熊本県立北部中)が6ピン差の2位につけていた。

決勝(3G)は、予選4位の五月女瑛太選手(埼玉・川口市立上青木中)が、「昨日のオイルを

引きたてのレーンで777を打ったときの感覚が残っていた」と、1G目277、さらに2G目は280を打って、2位の高林和志選手(東京・杉並区立西宮中)に89ピン差をつけた。「800シリーズも頭にあった」と五月女選手。最終G223で、800シリーズこそならなかったが、トータル2811の大会新記録で優勝を飾った。

女子
予選3回戦で689とスコアを伸ばした藤原彩花選手(京都・宇治市立西小倉中)が1879で1位通過、38ピン差の2位で朝倉奈菜羽選手(神奈川・大和市立上和田中)が続いていた。

予選は上位を1、2年生が占めていた。藤原選手から147ピン差の7位と出遅れた最終学年に初優勝をかける田口みちる

選手(愛知・北名古屋市立白木中)は「決勝は800を打つぐらいの勢いでないと追いつかない。でもオイルを引き立ては得意なレーン、打てると信じて投げた」と、1G目231、2G目267を打って猛追。最終Gは199とやや伸び悩んだが、トータル2429で逆転優勝を飾った。2位には藤原選手が5ピン差で入った。



▲「1週前の国スポの関東ブロック予選で落ちた悔しさをこの大会にぶつけた」と五月女選手、昨年準Vのリベンジも果たした



▲「あまり優勝の実感がないけど、応援してくれた人たちが喜んでくれてうれしかった」と、予選の7位から逆転優勝の田口選手